

江戸取図書館便り 10月1号



— 新着図書紹介 —



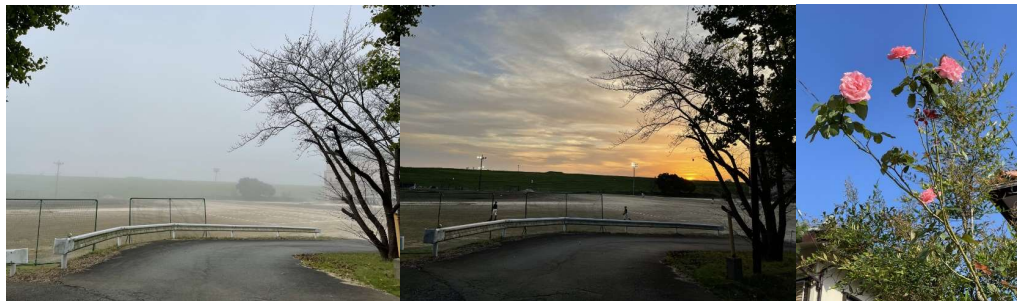
かんろ こうがんきたる * 寒露の初候 「鴻雁来」 (2021年10月8日~)

せいめい つばめ(げんちょう)きたる こうがんかえる
 * 清明の初候「玄鳥至」(4月4日)・次候「鴻雁北」(4月10日) 春になれば
 燕が南からやって来る すると雁は北へ帰って行く * 白露の末候「玄鳥去」(9月18日)
 秋になれば燕は南に帰り 冬が近づけば 雁が北からやって来る 季節は繰り返して行く

よ さぶそん 大津絵に 糞落しゆく 燕かな (与謝蕪村)

なかむらていじよ 久しくて 次なる雁の 鳴き渡る (中村汀女)

「玄鳥とは燕の別名です。燕は稲作において害虫を食べてくれる益鳥として大切にされ、燕の糞は雑草の駆除に役立つと江戸時代にはいわれていたそうです。燕の巣のある家は繁盛すると言われていました。その燕は秋になると南に帰ってしまうことに哀愁を感じ、続く真雁の到来は冬の訪れを感じさせたことでしょう」『365日を豊かに過ごす 日本の四季、二十四節気、七十二候』より要約 (司書)



* 写真左から、江戸取は川辺(利根川)の学校です。朝霧のかかる登校時(10月5日撮影)。写真中央は、同じ場所の下校時(10月5日撮影)。陽の落ちるのが早くなりました。西側の窓から、校舎の奥まで差し込んでくる真っ赤な夕焼けがもうすぐ見られることでしょう。写真右は、バス停近くの民家「ピンクのバラの花」(10月8日撮影)。秋が深まれば空気が澄んできて富士の山がよく見えてきます (司書)

